

病害虫情報 No.11

茨城県病害虫防除所

ナシ黒星病（秋型病斑）が、多発生しています。

秋季の薬剤散布及び落葉処理を確実に実施しましょう。

[現在の発生状況]

10月中旬現在 秋型病斑の発病度及び発生地点率は、過去8年と比べてやや高い(表)。本病は、10～11月の降雨時に秋型病斑からりん片への感染が盛んになり、これが翌年の伝染源のひとつとなるため、秋季防除の徹底が重要である。本病は、秋型病斑を生じた落葉上で翌年の3月中旬頃から子のう胞子が形成され、これがもうひとつの伝染源となるため、落葉処理の徹底が重要である

表 ナシ黒星病秋型病斑発生状況（10月中旬調査）

地域 (調査地点数)	発病度 ¹⁾		発生地点率(%)	
	本年(順位) ²⁾	平年 ³⁾	本年(順位)	平年
県北 (3)	0.7 (3)	0.6	67 (3)	44
県南 (6)	1.8 (2)	0.9	67 (4)	56
県西 (9)	0.7 (2)	0.3	78 (3)	41
全県(18)	1.1 (2)	0.6	72 (3)	47

1) 発病度 = (2A + B) / (2 × 調査葉数) × 100

A: 病斑が葉全体の1/2以上に分布している発病葉数

B: 病斑が葉全体の1/2未満に分布している発病葉数

2) 過去9年間における本年値の順位を示す。

3) 2001～2008年までの平均値。

[防除対策]

秋季にオキシラン水和剤等の薬剤散布を確実に実施する。

薬液散布量は、10 a 当たり 300 リットルを目安にし、徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に散布する。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

防除の際は、周囲へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意する。

黒星病は降雨によって伝染する。本年は秋季の降雨量が多かったため、秋季の防除に加えて、落葉前の11月上旬にも防除を徹底する。

発病した葉は翌年の一次伝染源となるため、落葉は集めて土中深く埋めるかロータリー耕によりすき込む。